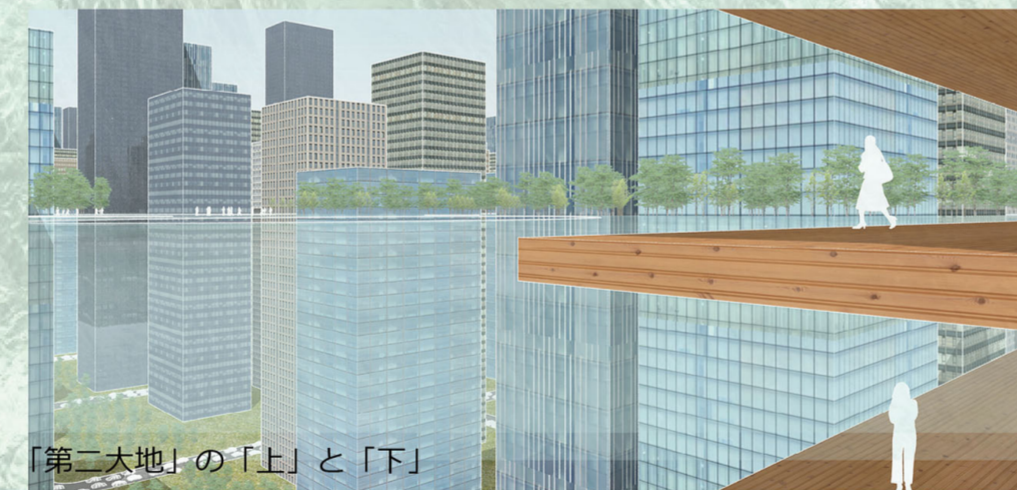
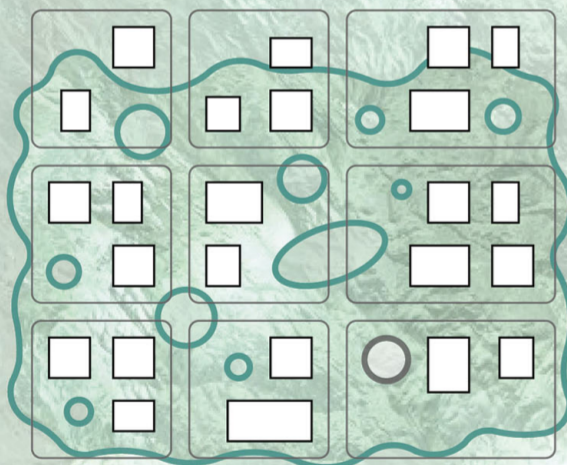
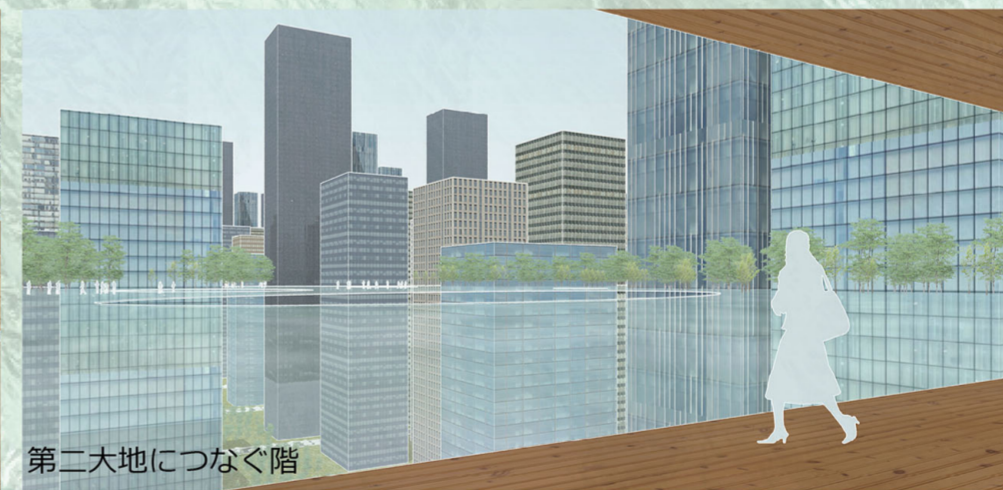


2050、広がる「第二大地」

人類の文明の発展とともに、地球の表面ー「第一大地」の環境は温暖化より悪化してゆく。人間には「第一大地」ではなく、生活環境を支える都市にある新しい表面が必要とされている。新しい技術の結晶、空に浮かぶ強いかつ軽い透明ガラス層は「第二大地」に変わってゆく。



「第二大地」の「上」と「下」



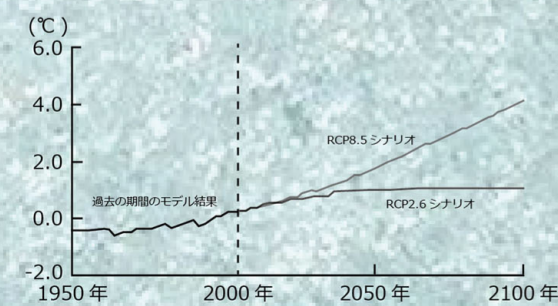
第二大地につなぐ階
2050年までの「第二大地」建築工事プロセス



スラブまで浮かんできた「第二大地」の下の階

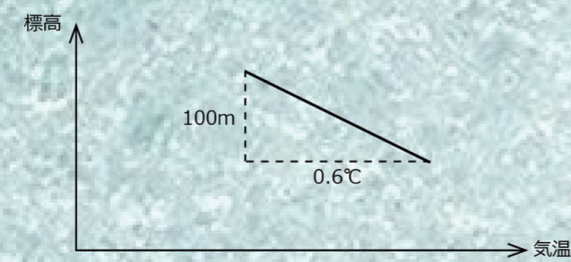
背景

地球温暖化より、2050年までに世界平均地上気温の上昇が予測され、いままで人類が開発されていた地球の表面ー「第一大地」は人間が求める生活環境ではなくなる。気温減率の原理に基づき新しい生活環境ーガラス層で構成する「第二大地」計画はたてられた。



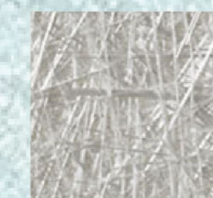
世界平均地上気温変化

(URL: https://www.data.jma.go.jp/cps/dof/gw_portal/future_climate_change_world.html)

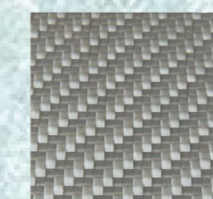


標高と気温の関係 (標高 10km 以下の場合)

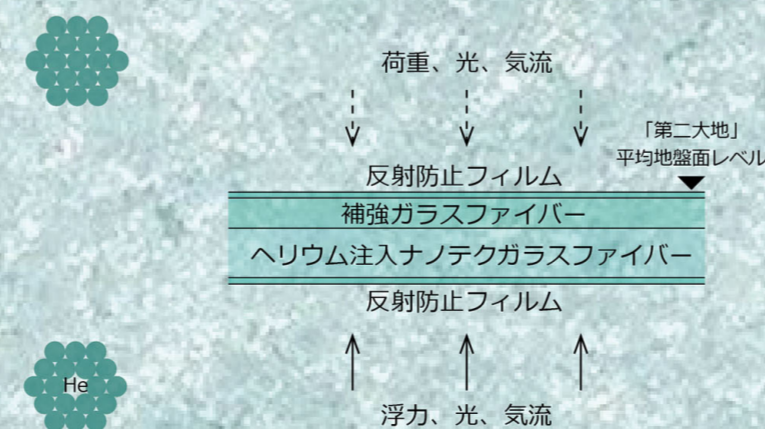
(URL: <https://www.jma.go.jp/jma/ishou/snow/whitep/1-1-1.html>)



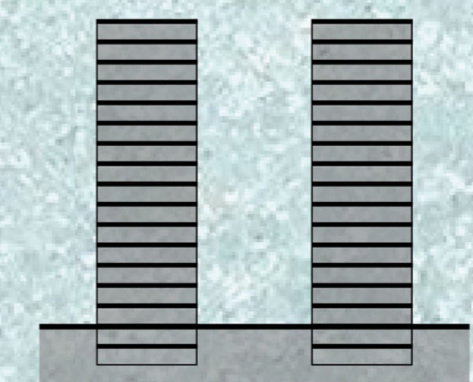
補強ガラスファイバー



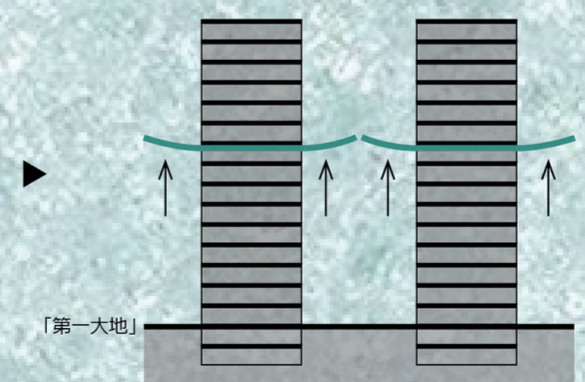
ヘリウム注入ナノテクガラスファイバー



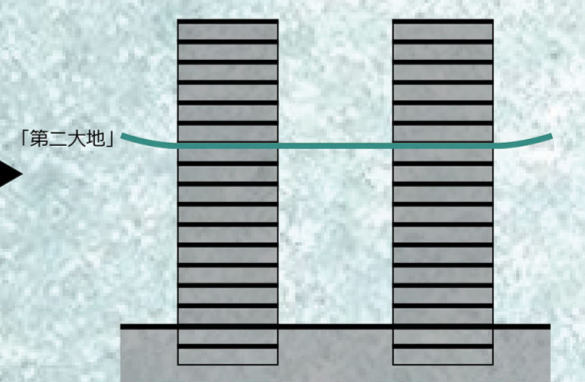
断面コンセプト



現状の土地 - 「第一大地」に立つ高層ビル



都市にある各高層ビルの高層階のスラブ裏面に
浮かぶガラス層を設置する



各浮かぶガラス層の縁をガラス溶接し、
空に浮かぶ「第二大地」が広がる